

235

Privé.

プライベート
冬号 WINTER

2007年11月 発行

日経BP社

ホテルを
自在に使いこなす贅沢
Life with hotel



豊かな自然に育まれる、 カーリン・プレラーのオーガニック化粧品

ジャン・マルク・タンゴ=写真 photographed by Jean Marc Tingaud ● 栗野真理子=取材・文 text by Mariko Awano

自宅の庭で寛ぐカーリン。彼女が丹精込めて手入れしている庭だ。菜園もあり、お手製の野菜のバテなどを来客があれば振舞ってくれる。自然の中でリラックスしながら生活しているのがよくわかる。

あることがきっかけで、中世のアルケミー（錬金術）のひとつ、スパゲリック法に触れてから、カーリン・プレラーの挑戦が始まった。植物に秘められたパワーを太陽と月、天体の動きを鑑みながら、最大限引き出すことができる方法で化粧品を作り出すのだ。手間を惜しまず、丁寧に、正直に作り出される、人工物は一切加えないこの化粧品は、真にナチュラル、オーガニックと言えるもの。彼女の手から生み出される神秘的なこの化粧品、ソルーナのことが知りたくて、ドイツ・ミュンヘンへと向かった。

プライヴの五感

1





2

プライベートの五感

仕事とプライベートが見事な均衡を見せる、 オフィス兼自宅へ

ミュンヘンから車で1時間、ドナウベルト。ソルーナ化粧品オフィスのカーリンの自宅でもある。ドイツらしい、山小屋風の三角屋根の家は、庭から日差しがたっぷり入り、冬でも心地よい。5月になれば、そこかしこに花が咲き乱れ、ヨーロッパの短くも、美しい夏を堪能できる。こんなに自然に恵まれた土地で、ソルーナ化粧品は作り出される。



上:印象的な三角屋根の家を庭から見る。日が深く差し込み、暖かい雰囲気の家だ。

下:シンプルにまとめられたリビングルームを臨む。錬金術の絵画やオブジェが壁に。

右:庭や菜園で過ごす時間もとても好きだというカーリン。センスよく、シンプルな庭に仕上がっている。



プライヴの五感

3

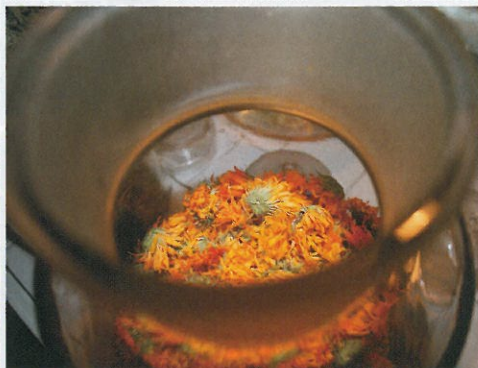
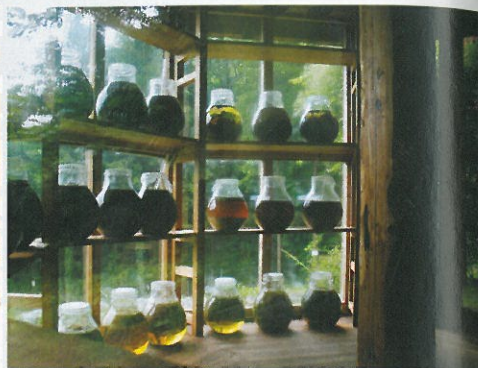
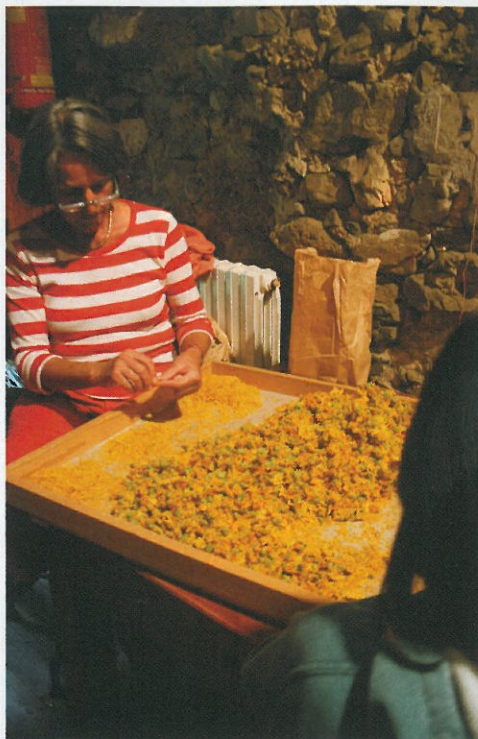


神秘的で複雑な工程を経て、生み出される化粧品。
 ここは現代に生きる錬金術師達の城。

自宅近くに位置する元ベルヌス男爵の城。男爵が20世紀に見出したスパゲリック法を頑なに守りながら、今はソルーナ化粧品の研究所として存在している。独特の蒸留器を使った蒸留過程では自然放熱によってエキスの凝縮を行い、その原液は人間の血液の総量といわれる6リットルのガラス容器に納められ熟成されるという。まさに現代の錬金術師達の城のようだ。

Karin Proeller
 カーリン・プレラー
 ソルーナ社代表。
 ドイツ・バイエルンに生まれ。
 1988年、アルケミスト（錬金術師）研究で有名なベルヌス男爵のメソッドによるスパゲリック治療薬と化粧品を製造するソルーナ社に入社。その後経営者として活躍。ソルーナ化粧品はドイツをはじめ、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、日本にも販売されている

上左:自宅にも研究所にも錬金術の絵が飾られている
 上右:まさに蒸留している真っ最中。自然放熱によってエキスを凝縮するのは莫大な時間と手間がかかる。
 下左:蒸留され、複雑な工程を経て作られたスパゲリックの原液が並ぶ。体温と同じ37°Cで熟成する。



写真真中から時計回りに
 カレンデュラのガクを取り除く作業をするカーリン。
 手摘みされた花々は網の上に置かれ、乾燥室に。
 薬草園の中にある八角形のガラス室は小高いところに。
 これから蒸留される花々。
 サン・ペレグリーノ鉱泉に近い
 薬草園の中の湧き水は、甘露な水。
 薬草園内でも蒸留などの作業が行われる。
 霧がたなびくアヴェララの農園の朝。
 光をたっぷり受け熟成されるエキスが並ぶ。
 写真提供: メイムプロダクツ(株)

完全にエコロジカルな、恵み豊かな イタリア・アヴェララの薬草園

ソルーナ化粧品原材料は、サン・ペレグリーノ鉱泉に程近い、アヴェララの薬草園で栽培されている。カーリンも足しげく訪れ、作業をともにすることもある。約75種類の植物が除草剤や化学肥料を一切使わず、肥料はミネラル類と天然肥料だけ。自然のリズムに従って種まきから、育成、収穫まで行い、その全ては手作業で行うのだ。ここにいると、人間も自然の一部であることを実感し、その恵みに感謝する心が生まれてくる。

5

プライヴの五感



「見て。こんなに寒いのに
花が咲いている」。
庭先で白い野バラを
見つけて喜ぶカーリン。

錬金術に魅了され、手間ひまかけて生み出す オーガニックな化粧品づくり

ミュンヘンから車で約1時間、ドナウ川が近くを流れるドナウベルトに、スバゲリック化粧品「ソルーナ」を作るカーリン・プレラーさんのオフィス兼自宅を訪ねた。通された部屋には、18世紀の錬金術の絵がかかり、ミステリアスな雰囲気を出している。

「スバゲリック法とは、中世の錬金術のひとつで、薬草やミネラル、金や銀を原料にして、醗酵や蒸留、洗浄、灰化、結合という過程を経て、エキスを抽出する技術です。こうして出来上がったものは薬剤として効き目があるのですが、私はそれを化粧品に転用させたのです」

カーリンさんとスバゲリックの出会い、約35年前に遡るといふ。ドナウベルトで偶然住みついたこの地に、16世紀最大の錬金術師で、スバゲリックの創始者、バラケルススの知識を受け継ぎ、私財を投じて研究をしていたアレクサンダー・フォン・ベルヌス男爵の城があり、たまたま男爵夫人や家族

と知り合い、錬金術やスバゲリックについて興味を持ったという。

「ちょうど子供も大きくなり、何かをやってみたいと思っていたときのことでした。太陽や月、惑星など宇宙の周期を組み込んで作る過程にも大きな魅力を感じ、城の研究所を引き継ぎ、スバゲリック法を用いた化粧品を作ったら、と思ったのです」

真剣に話すカーリンさんの顔は生き生きと輝いていて、美しく歳を重ねてきた女性の余裕が感じられる。

さっそく近くにある研究所へ案内してもらった。室内は真っ白で清潔な空間で、薬草の匂いがそこかしこに立ち込めている。

「ソルーナの原料となる植物は、すべてイタリアにある自社専用農園で作られています。ここでは約75種類の薬草を栽培。化学肥料や除草剤はまったく使っていませんし、収穫から分別にいたるまですべて手作業で行われているのですよ」

収穫された植物は、天然木と絹の上で乾燥され、ベルヌス男爵が確立した方法を忠実に守り、独特のガラス製の蒸留器で蒸留。できあがった原液は、人間の血液と同量の6リットルのガラスの容器に入れられ、木とガラスでできた八角形の部屋で、人間の体温と同じ37度でゆっくり熟成されていくという。ここで50日間、毎日日の出に合わせて右に33回、月の出に合わせて左に28回攪拌させ、太陽と月のエネルギーを原液へと送り込むそう。

気が遠くなるほどの作業工程を何っ

ていると、なんとも神秘的で不思議な力が宿っているような気がしてくる。

「これらの工程を機械を使わず、人間の手で時間をかけて行うことで、植物のエネルギーを引き出すことができるのです。これが人間の皮膚を柔らかく活性化し、みずみずしさをもたらすのです。そうすると幸せな気持ちになって、肌に輝きが出てくるの」

肌を美しくするだけでなく、心にも働きかける植物の力。最高品質の原料にこだわりの、時間と手間をかけて作るオーガニックコスメは、カーリンさん



左:ドイツ・ドナウベルトの自宅は錬金術のモチーフのオブジェでいっぱい。右:アルケミーに関する書物も豊富に。ベルヌス男爵は、シュタイナーとも親交があり、20世紀のドイツに大きな足跡を残した。

にとつては宝ものような存在だ。

現在は息子のクリストフ氏が右腕となり、自分達の企業哲学をかたく守りながら、ソルーナ化粧品を製産し販売。今ではドイツをはじめ、ヨーロッパや日本でも販売するほど人気に。

オフの時間は、愛犬とドナウ川の畔を散歩したり、庭の手入れをしたり、自然のなかでのんびりしているというカーリンさん。植物と宇宙の力を信じて造り出す化粧品には、彼女の美学が貫かれている。

小さな研究所から今や世界中に輸出されているソルーナ化粧品。オーガニックにうるさいアメリカ人に人気が高いそうだ。日本では、帝国ホテルプラザ店に直営店がある。www.soluna.jp